

令和4年度 学校評価報告書 (目標設定・**実施結果**)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月11日実施)	総合評価 (3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①基礎学力の定着、課題発見解決力の育成を目指した教育課程編成及び授業改善に取り組む。</p> <p>②学校行事や生徒会活動における生徒の主体的な取組みを推進する。</p>	<p>①生徒の学習習慣を定着させ、基礎学力の向上を図る。教科会を主体とした組織的な授業改善の充実を図る。</p> <p>②体育祭・文化祭・合唱祭及び生徒会活動の更なる活性化を通して主体性や社会性、豊かな人間性の涵養をより組織的に図る。</p>	<p>①実力アップ講習等は年間の計画を策定し、教科として組織的に取組む。ICT利活用推進チームを新設し、組織的に授業改善に取り組む。</p> <p>②生徒が、実行委員会を中心に各自の役割を意識して取り組むよう指導し、主体的な活動を通してリーダーシップを育み、コミュニケーション能力の向上など人材育成を図る。</p>	<p>①実力アップ講習及びキャリアアップ講座の開講講座数、受講生徒数が前年度を上回ったか。ICTの利活用について、学校評価アンケートにおいて肯定評価 <b>80%</b>以上を達成できたか。</p> <p>②学校評価アンケートの学校行事・部活動等において「主体的に取り組むことができたか」等の項目において、肯定評価 <b>80%</b>以上を達成できたか。</p>	<p>①年間計画を作成して組織的に取り組んだ。以前からの第1・2期に加え、第3期を設定して土曜講習を積極的に実施した。結果として1年生の受講人数が大幅に増加した。ICTの利活用について1年生の<b>58%</b>が肯定評価した。</p> <p>②コロナ禍においても工夫し教育活動に取組み、学校評価アンケートの該当項目において肯定評価 <b>93%</b>を達成し、学校行事を通じて生徒の主体的な取組みを支援しリーダーシップを養った。</p>	<p>①1年生の受講人数は増加したが、2・3年生の受講人数は例年並みであった。講習内容や部活動との両立について検討する必要がある。ICT利活用については生徒の個人PCの準備が遅れながらも一因だが、授業での活用や、活用方法の指導などの更なる利活用を推進する。</p> <p>②学校行事や部活動のさらなる活性化を図り、活動を生徒の主体的な活動を支援する。各行事の実行委員会等の運営をより主体的なものとするよう指導する。</p>	<p>①実力アップ講座を充実させ1年生の受講人数が増加している点が評価できる。生徒のニーズや状況に応じた工夫がなされ、成果をあげたことが評価できる。更に大学の資源などを積極的に活用し、より一層の充実を期待する。</p> <p>ICTの特性を生かしながら、多様な学習機会の更なる提供や「授業の柏陽」をリードするような取組みに期待する。</p> <p>②コロナ禍においても、各種学校行事の企画・運営を、生徒実行委員会が主体的に取組み、生徒の満足度が高い点が評価できる。引き続き、生徒の自主性・主体性を引き上げる取組みに期待する。</p>	<p>①1年生については、土曜講習受講者募集に際して担任が年間計画を提示して丁寧に説明をしたため、受講者増となったと考えられる。主体的に生徒が受講する環境づくりが必要である。</p> <p>②感染症対策を徹底した上で、生徒の主体的な取組を支援し、年度当初に計画した行事をすべて実施することができた。その結果として、生徒の高い満足度を得た。球技大会において、オンライン中継などを活用した取組みを行うことができた。</p>	<p>①生徒のニーズに対応した講座を設定するとともに、各教科が作成する講習年間スケジュールに、英語外部検定対策など教科の目的やねらいを明記し、その魅力や必要性を生徒に伝えるとともに、学校全体で組織的に推進していく。</p> <p>②学校行事について、社会状況に対応しつつ、コロナ禍で得たICT活用などの知見を生かし、より活発で充実した活動となるように指導していく。</p>
2 (幼児・児童・) 生徒指導・支援	<p>①学校行事や部活動の活性化を通し、責任感や連帯感の涵養を図る。</p> <p>②生徒一人ひとりの個に応じた支援体制の充実を図り、心身の成長を支援する。</p>	<p>①学校行事等の活性化を通して主体性、社会性、豊かな人間性の涵養をより組織的に図る。</p> <p>②生徒への支援体制について情報共有を密にし、様々な機関との連携や活用を進めるなど、組織的な対応を図る。</p>	<p>①感染症対策を徹底しながら、学校行事や部活動の指導において、活動目標を明確化し、生徒が責任感を持って行動し、目標達成できるように支援する。</p> <p>②教育相談の窓口について、校内掲示やホームページ等での周知を通じ、教育相談を気軽に行える環境を整える。また、学年代表者会議を新設して校内の情報共有を活性化し、より組織的な対応を図る。</p>	<p>①学校評価アンケートの学校行事等の取組状況や満足度等について肯定評価 <b>80%</b>以上を達成できたか。</p> <p>②校内における教育相談の実施状況や学校評価アンケートの教育相談等に関する項目について、肯定評価 <b>80%</b>以上を達成できたか。</p>	<p>①コロナ禍においても工夫した教育活動に取組み、学校評価アンケートの該当項目において、行事について <b>95%</b>、部活動について <b>91%</b>が満足していると回答した。</p> <p>②スクールカウンセラーによる教育相談は19回実施し、延べ <b>70人</b>が利用した。カウンセリング後、担任や管理職と情報の共有化を図った。「心の悩みや学習上の悩みなどについて相談できる環境があった。」に係る肯定的評価は <b>84%</b>であった。</p>	<p>①学習との両立に苦慮している生徒がいることなどの課題がある。いかに工夫して学習と両立しつつ、学校行事や部活動を充実させるかを生徒に考えさせ、その活動を支援する。</p> <p>②教育相談に関し、丁寧に個別対応し、一定の成果をあげている。スクールカウンセラーによる教育相談に加え、様々な機関と積極的に連携し、より一層の充実を図る。</p>	<p>①コロナの影響が残る中、細心の注意と徹底した安全対策の下で、年度当初に予定された学校行事をすべて実施したことは評価に値する。また、学習、部活動、学校行事などの各活動が、バランスよく行われている。</p> <p>②肯定評価の84%は高い数値ではあるが、支援体制についてはより高い満足度を目指して欲しい。悩みがあるが言い出せない生徒が相談しやすい環境を整える必要がある。匿名で相談する方法としてICTを活用などが考えられる。検討して欲しい。</p>	<p>①活動を通して生徒に責任感や連帯感を身につけさせることができた。昨年度の経験を生かし、制限された時間を有効に活用して充実した部活動や行事を実施することができた。今後はさらに生徒の健康と学習時間に配慮し、バランスのとれた生活を送れるよう、より計画的で組織的な取組みが必要である。</p> <p>②相談に対して丁寧に個別対応を行い、高水準の肯定的評価を得ることができた。スクールカウンセラーについても多くの生徒が利用し、情報を共有することで支援を充実させることができた。多くの相談に対応するため、カウンセリングを受けられる機会を増やしていく必要がある。</p>	<p>①目標を明確にし、さらに生徒自らが考えて活動できるよう指導していく。実力アップ講座の計画などと連携し、学習、部活動、学校行事などの活動がバランスよく行われるように計画的、組織的に指導する。</p> <p>②スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの配置拡充を活用し、生徒が相談できる機会を増やすとともに、密に情報共有し、より一層の相談体制の強化を図る。また、来年度から実施予定の「かながわ子どもサポートドック」を活用し、ICTを利用したより相談しやすい環境の整備に努める。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月11日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	高い進路希望実現に向け、生徒がグローバルな視点を持って将来を設計できるよう、自らのキャリア発達を意識できる、3年間を見通した進路指導の充実を図る。	①生徒の高い進路希望の実現を目指すため、進路指導の充実を図る。	①3年間を見通した「進路指導プログラム」に確実に取り組む。また、新学習指導要領による大学入試の変更点について情報を収集し、生徒、保護者、教職員への周知を図る。	①生徒及び保護者の面談、出願指導検討会及び進路説明会が有効であったか。大学入学共通テスト得点状況、難関大学合格者数10名以上、国公立大学合格率 <b>40%</b> 以上を達成できたか。	①進路指導への肯定評価は <b>74%</b> であった。国公立大学の前期までの現役合格者は112名、(昨年103名)、難関国公立大は13名(昨年21名)。保護者対象進路説明会、生徒対象進路説明会にて丁寧な情報提供を行った。また、出願指導検討会を実施、担任・教科担当などで現状を把握し指導に活用した。	①出願指導検討会を行うことで、担任以外からの声掛けができ、教科担当からも適切なアドバイスを行うことができた。次年度へは、今年度の合否結果を加えた資料を作成し、4月に55期担任、生徒へ伝えていく。54期生の進路状況は結果を待つところだが、引き続き生徒の高い進路希望を引き出し支える指導を進める。	①生徒の満足度の高さが評価できる。大学進学を目標に入学してくる生徒が多い中で、進学実績が出ているところが良い循環となっていると感じる。英語でのディベート活動やグローバル教育のプログラムは、教員の熱意と工夫が感じられ評価できる。継続的な取組によってGTECなどのスコアの伸長や論理的表現力を身に付けることが期待される。継続的な取組みを期待する。	①学力向上進学重点校の指標である難関国公立大学等の現役合格者は13名(昨年度21名)、スーパーグローバル大学への進学率は28.3%(昨年度20.8%)であった。また国公立大学後期合格者は20名(昨年度20名)であった。今年度は後期日程に対し出願したが受験しなかった生徒が多かった。諦めずに後期日程まで取り組む大切さを指導していくとともに、前期日程で志望する大学に出願できるよう、1年生からの意識づけが大切である。	①生徒の第一志望実現のために、選択科目説明会や難関大ガイダンスの内容を精査し、学校全体でさらに意識を高める。1年生は、夏季休業中のオープンキャンパスの参加、2年生は国公立大学を意識した選択科目の説明、3年生は年3回の面談、12月、1月の出願指導検討会を実施し、教員全体で情報を共有して組織的な進路指導を推進する。
4	地域等との協働	①ホームページのコンテンツを充実させ、学校の特色と魅力を積極的に発信する。  ②保護者や地域、大学等外部機関、行政機関等との協働連携を促進し、本校教育力の向上を図る。	①本校の教育活動について、保護者や地域の方に向けて、より広くかつ迅速な情報発信に取り組む。  ②保護者や地域、大学等外部機関、行政機関等との協働連携を促進し、本校教育力の向上を図る。	①生徒の活動の様子をより詳しくかつ迅速に発信するため、情報収集や更新作業の仕組みを改善し、組織的な取組みを推進する。  ②授業や学校行事において、行政機関、大学研究機関、地域、民間等と連携した教育活動の充実を図る。	①学校説明会などにおけるアンケートで、ホームページが適切に情報を伝えているという肯定評価 <b>70%</b> 以上を達成できたか。  ②授業や学校行事における外部機関や講師の利用状況や、保護者・生徒の満足度等の結果はどうか。	①年2回の定期更新に加えて部活動ホームページを随時更新して情報の発信に努めた。学校説明会のアンケートで肯定評価が <b>92%</b> となった。  ②キャリアアップ講座は <b>18講座</b> と昨年(13講座)と比較して増加したが、令和元年度44講座と比較すると少ない状況である。該当項目の満足度は <b>43%</b> となった。	①保護者の学校の様子がよく分かったという評価が57%となった。コロナ禍で行事の一部を非公開としたことなども原因だと考えるが、より一層のこまめな情報発信に努める。 ②キャリアアップ講座などにおいては、オンライン講座を更に活用するなど、外部機関との連携しながら、より一層の講座数やその内容の充実を図る。	①開かれた学校づくりにおいて、学校情報の積極的・定期的な配信を進め、保護者や地域との連携を更に充実させることを期待する。  ②コロナ禍においても様々な形で地域との連携が続いていることが評価できる。小中学校との連携など検討の余地はありそうである。地域との連携を通して他者を思うことや、他者への働きかけ・つながりを意識していけるよう、より一層の活動の充実を期待する。	①中学生とその保護者に向けた情報発信としてホームページ更新を活発に行うことにより、一定の成果を上げた。より一層の充実を図る。  ②キャリアアップ講座では、オンライン講座など工夫して実施し、コロナ禍で減少した開講講座数は昨年よりも増加したが、例年よりも少なかった。新たな連携先や、新たな取組みを検討して、外部機関との連携を推進する。	①部活動ホームページについては作成済みのマニュアルを活用して、より一層こまめな更新を推進する。部活動以外の生徒の活動の様子についても更新を組織的に推進する。  ②新たな連携先の探索や、オンライン講座の活用など活動内容を工夫して、キャリアアップ講座をはじめとした外部機関との連携を進めていく。
5	学校管理 学校運営	①教育環境の変化に迅速に対応し、前向きに課題に取り組む雰囲気醸成し、魅力と活気ある学校づくりに取り組む。  ②各種会議を計画的に実施し、効率的な学校運営に取り組むとともに、緊張感のある防災訓練を継続し、安全安心な教育環境を整備する。	①教育環境の変化に迅速に対応し、前向きに課題に取り組む雰囲気醸成し、魅力と活気ある学校づくりに取り組む。  ②円滑で効率的な学校運営に取り組むとともに、安全安心な教育環境の整備及び、事故・不祥事の防止を図る。	①職員が相互に尊重し合える職場づくりを目指し、職員人権研修会や事故防止会議を実施する。報告・連絡・相談を励行し、連携して課題に取り組む雰囲気を醸成する。  ②ICTの利活用を推進し、情報の共有化、校務の効率化を図る。地域と連携した防災対策を進める。事故防止会議等により不祥事防止に取り組む。	①職員人権研修会等の実施回数やその取組状況はどうか。報告・連絡・相談を励行しているか。  ②ICTを導入して校務の効率化を図れたか。安全点検を実施したか。防災訓練の実施状況、不祥事防止研修会をはじめとする不祥事防止の取組の実施状況はどうか。	①「LGBTs」に係る職員人権研修会を実施。定例の事故防止会議を <b>8回</b> 開催したほか、スクールカウンセラーを講師とした事故不祥事防止研修会を実施した。 ②職員の連絡に電子掲示板を活用し、朝の打合せ更なる時間短縮を図った。防災訓練を実施し、生徒の防災意識の向上に努めた。教職員の不祥事防止の徹底を図るため、計画的な取組の実施に着手した。	①研修会への職員の取組み等より人権尊重や事故不祥事防止に対する教職員の意識の高揚がうかがえる。引き続き研修会の実施等に努める。 ②ICTの更なる活用により業務の効率化を図る。地域の方など校外の方の協力を得ながら、より効果的な防災訓練を実施するなど、安全安心な教育環境を引き続き整備し、事故・不祥事の防止に取り組む。	①教育界において、不祥事防止や人権教育へ理解を深めることは、より一層重要となっている。引き続き、教職員の意識向上をめざした取組みを期待する。  ②各種会議でICTの活用を推進することで、業務の効率化を図り、教育活動のより一層の充実に向けた取組みを期待する。	①職員の事故不祥事防止や人権教育への理解は研修会等を通じて深まってきている。  ②ICTを効率的に活用し会議を円滑に実施することができた。安全安心な教育環境を整備するために地域とのより一層の連携を図る。	①より高い倫理観を持って教職員が職責を遂行できるよう、研修会などの効果的な取組を計画的に実施していく。  ②ICTを更に活用して各種会議を効率的、計画的に開催できるよう努める。現在は会議室等の設備を用紙に記入して管理しているが、ICTを活用して業務の効率化を進める。防災訓練など、地域の方をはじめとする外部機関と連携し、安全安心な教育環境の整備を進める。